

うきしま

第84号

令和6年3月19日
PTA広報部

令和5年度

卒業証書授与式

式 辞

京都府立東舞鶴高等学校

校長 塩尻 徹



厳しかった冬の寒さも徐々に和らぎ、舞鶴湾を吹く夜風にも春の訪れを感じる今日、ここに京都府立東舞鶴高等学校浮島分校、令和5年度卒業式を挙行できますことを、心からうれしく思います。また、御来賓として、たいへん御多忙の中を御臨席賜りました京都府議会議員

小原 舞 様

舞鶴市立青葉中学校長

小林 由美 様

本校同窓会長

福本 清 様

本校PTA代表

藤井 恵 様

には、ともに卒業生の門出をお祝いいただけますことに、高段からではございますが、厚く御礼申し上げます。

只今、卒業証書を手になされた三名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。今、笑顔で入場してくる皆さんの姿は、本当に晴れがましく、誇らしげに見えて、私も非常にうれしく笑顔になりました。皆さんは約三年もの長い期

間、コロナ禍と言われる社会状況の中で学校生活を送ってきました。しかし、その中でも、各自が地道な努力を怠らず、粘り強く辛抱をして、毎日の授業を受け、希望進路を達成し、未来を切り開きました。また、生徒会活動や学校行事の中心として活躍し、一人ひとりが持つポテンシャルと生きる力の強さを自ら証明してくれました。そのような皆さんに、心からの敬意と拍手を送ります。そして、この浮島分校に勇気と希望を届けたくれた皆さんに深く感謝をします。ありがとうございます。

保護者等の皆様、御家族の皆様も、お子さまの御卒業、誠におめでとうございます。今日の佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと存じます。その健やかな成長を願い、慈しみ育ててこられた皆様に、教職員を代表して、心よりお慶びを申し上げます。

さて今年、元旦に令和六年能登半島地震が、そして翌日には羽田空港で深刻な航空機事故が発生し、多くの方が「まさか」という驚きや畏れをもって新年を迎えられたのではないのでしょうか。多くの方がお亡くなりになったことに対して、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、今も避難生活を

余儀なくされている方々をはじめ、被害にあわれたすべての方々に、皆さんとともに心からお見舞いを申し上げます。

あらためて考えれば、私たちは一年後のことはおろか、明日にさえも何が起こるか分からない中で生きています。とくに大地震のような出来事は、自然を相手にしたら、人間の力なんて弱いものなんだということを如実に突きつけてきます。また、己を振り返れば自分のことなのに自分の思うようにはならないこともしばしばあります。社会に目を向ければ、その多様な問題点に無力感を覚えることも少なくないですし、DX、デジタルトランスフォーメーションという言葉に最も象徴的に表れる急激な変化・変革の数々に呆然と立ち尽くしてしまうこともあります。

こんな不確実で予測不可能な環境の中で、未熟で不完全な私たち人間は、実は生きています。それならば、先々のことや難しいことなど考えず、信じるものも目指すものも持たずに、流れに任せておけばよいのでしょうか。いいえ、もちろん決してそうではありませんね。

私は皆さんに、「小さなゴールを積み重ねよう」と言い続けてきました。そして、皆さんがそれを

やり遂げるたびに「OKです」と伝えてきました。先生方も、皆さんが小さなゴールをくぐるたびに喜びを感じながらいっしょに過ごしてきました。当たり前のことかも知れませんが、そんな当たり前を確実に一つ一つ積み重ねてきたからこそ今日です。今日が高校生活最後のゴールです。笑顔で、皆が揃って卒業式を実施することができました。OKです。今日も皆で喜びたいと思います。

マラソンを思い浮かべてください。四十二・一九五キロメートルも先のゴールは、スタート地点からは到底見えません。それどころか一キロメートル先の水たまりさえもランナーにはもちろん見えませんが、それでもランナーは、必ずやってくるゴールを目指して一歩一歩走っていきます。その途中で応援してくれる人から勇気や元気がもたらうこともあります。私たちが生きるということも、これに似ているのではないのでしょうか。塩尻の昔話を聞いてください。自分が高校生の時に、生徒全員が約二十キロメートルを走るマラソン大会がありました。陸上部員でもなく、普段長距離を走ることもない私でしたが、一つだけ自分が自分と約束したことがありました。「どんなにしんどくても、決して止まらないでおう」「歩く

ぐらいのスピードでもよいから気持ちだけは走り続けよう」。それをやり遂げたら不思議と順位もついてきました。トップの陸上部員には遠く及びませんでした。自分のような者でもできたという納得感を得ることができました。残念ながら、OKです、と言ってくれる人はいませんでした。

たとえその一歩が小さくても、前に進み続けることが、必ずゴールにたどり着く最も確実な道です。走り続けることがつらくて、時には歩いてしまうこともあるでしょうが、それもOKです。これからも、皆さんがそれぞれの次なるステージで、一人ひとりが描くゴールに向かって前進をしてくれることを心から期待しています。

また、今を生きる私たちには、社会や地域をしっかりと将来の世代へと継承していく責任があります。そのために、私たちは言葉だけでなく行動でも、その責任を果たしていかなければなりません。そして、一人ひとりが互いに、「私たちの暮らすこの地域は、物質的にも精神的にもこんなに豊かで幸福な暮らしができますよ、いっしょにこの地域で生きていきましょう」と呼びかけることができるような、あるいはこれから生まれてくる世代に「この社会は一歩一歩こんなふうによくなっているか

ら、安心して生まれておいで」と呼びかけることができるような、そんな社会にしていきたいと思えます。

地元に残る人は、これからもここにいる私たちといっしょに、素敵な街を創っていきましょう。この舞鶴を離れる人は、決してこの地を、浮島の校舎を忘れず、それぞれの土地で学び、活躍してください。そして、いったんここを離れても、また戻ってきて、この地域に活力を与えてくれる人が一人でも多くなることも心から願っています。

そのために、私たち教育に携わる者もまた、主体的に必要な変革を進めていかなばならないと考えていますし、可能な限りこれからも皆さんの力になれるようにすることを約束します。

ご家族の皆様には、今日まで浮島分校の教育に深い御理解と、様々な場面での温かい御協力、御支援をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

特にコロナ禍や物価上昇への対応という面では御苦労もおかけしたことを思います。本場にありますがとうございませ。今後も引き続き浮島分校の応援団でいてくださいますよう、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日この学び舎を旅立っていく卒業生の皆さんの前途が幸多きものとなることを心から祈念するとともに、御出席いただいた全ての方々の御健勝と御多幸を祈念し、式辞といたします。



各学年より

一年担任 河本 壮平

今年度より東舞鶴に参りまして一年が経ちます。慣れない担任業ではありましたが、保護者の皆様や生徒の皆さんに助けられて一年



卒業証書授与

を過ごすことが出来ましたこと、感謝申し上げます。
さて、一年生の皆さんも浮島に来て一年の高校生活が経過しようとしています。
新たな生活がスタートし、慣れないことの連続だったと思います。今年、よく一年間頑張りました。今までできなかったことができるようになったり、新たなことに挑戦したり、それぞれチャレンジの一年になったのではないでしょう。高校生活はまだまだこれからです。現状に満足することなく、次年度も充実した時間を過ごしてください。

二年担任 青松 載剛

テストが終わり、終業式を迎え、いよいよ春休みに入ります。
三学期は短い期間の中で、新春カルタ大会、ボウリング予餞会、卒業式があり、一年の締めくくりと、次の学年への準備期間となつたのではないのでしょうか。
二年生半ばで、人数の増減があったり、新しいことを始めて生活に変化があったりしましたが、総じて良い変化をして、成長していることが実感できた一年間でした。

来年は三年生になります。高校生活は残り半分です。次の一年間は、君たちにとって重要な期間になります。考えたくない、まだ先だと思っていたことに正面から向かい合わないといけないので、不安や焦り、先延ばしにしたいくなることもあります。が、これまで二年間頑張ったことを糧にして、それぞれペースで乗り越えていきましょう。
春休みは思いっきり楽しんで、また、四月元気な顔を見せて下さい。

三年担任 温井 正人

今冬は積雪がほとんどなく、個人的には雪掻きによる腰痛を避け

られたのは幸運でした。しかし流行り病に自分もなり、例にもれず長い間後遺症に悩まされました。
そして、二月が去り、卒業式を迎えることとなりましたが、卒業生が三名と言うかなり少ない人数ながら、立派な式を行えたのではないかと思います。

振り返れば、この学年は一年次は十一名いました。最初の二年間で半分となり、以降は徐々に減りました。理由は様々でありましたが、夕方から夜の時間帯に学業を修めることの難しさがわかりました。同級生が次々と少なくなる中、初志貫徹をした卒業生にはエールを送りたいと思います。

三学年は、三学期のボウリング大会に積極的に参加をし、他の学年の生徒達と四年生を心から送ることができました。
残る一年間となってきました。勉学、学校行事、生徒会活動、アルバイトを通してさらに学校生活を充実させ、進路決定に向けて行動をしていきましょう。



四年担任 山本 彰治

去る三月一日に卒業証書授与式が行われました。三月になったとはいえ肌寒く暖房機器を入れたの式となりました。私が受け持った四年前の一年次には十一名が登校し、それはそれは大変にぎやかなクラスで、何かと大変であった思い出があります。それが学年を追うごとに人数が減っていき、最終的には卒業生が三名と激減し、さみしい気持ちにもなりました。しかし三名は様々な困難を乗り越え、無事に笑顔で浮島を巣立っていった姿を見て嬉しさと、寂しさと、ホッとした安堵の気持ちとが交錯し、複雑な気持ちです。

私は浮島へ来てから十七年目になり、今年の卒業生で卒業担任は五回目になります。

おそらく今回が教員生活で最後の卒業担任になることでしょう。浮島を巣立って行った三名は順風満帆な高校生活では無かったと思いますが、四年間でそれぞれがしつかりとした将来設計を持ち、見事全員が希望する進路を勝ち取りました。そして、希望するその道を実現するために次のステップに進んでいきます。

高校とは違う厳しい現実が待っているかもしれないですが、決して



卒業生答辞(代表・藤井 天成)

あきらめることなく次なるステップへしっかりと歩んでいってほしいと切に願います。
卒業生の皆さん、それぞれの進路での近況報告を楽しみにしているのでよろしく！
最後になりますが、保護者等のみなさんには何かとお世話になりありがとうございました。至らぬ担任ではありましたが、この場をお借りして感謝申し上げます。

学年部以外の校務分掌より

教務部長 村上 和也

今年もまた一年が過ぎました。生徒の皆さんはそれぞれの場で活躍し、成長できたのではないでしょう。今年には特に生徒数が少なく、すべての行事で生徒一人一人の役割が多くなっていました。みながよく頑張り、積極的に行動してこれまで以上にいい行事にすることができました。社会全体が人手不足で、一人何役もこなさなければならぬ現実があります。そのような多様性を求められる世界でも君たちはやっていけるのではないかと心強く感じています。
来年度はどんな生徒たちが入ってきて、今いる生徒たちはどんな活躍をし、新しく何が出来るようになり、そしてどれだけ逞しく成長するのか楽しみでなりません。
新年度もまたいっしょになって、頑張っていきましょう。

生徒指導部長 山段 優

今年もまた春が訪れようとしています。一年間を通して、浮島分校の生徒の皆さんは落ち着いた学校生活を送ってくれており、安心しております。
生徒指導部では様々な行事を計

画、実施しました。今年度はコロナ禍による制限がなくなり、体育祭や遠足等の行事を通常に戻して実施することができました。文化祭ではICT機器を使い、発表の幅を広げる等、充実したものにしました。また、生徒会活動としても給食のパンのメニュー決め等、新たな取り組みも始めました。来年度もより充実した活動ができるよう、生徒の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

進路指導部長代理 副校長 坂根 賢

四月から新たな学年になります。春休みは心身ともにすこしのんびりし、また始業式に元気な顔を見せてくれることを期待しています。
今年度卒業生の進路決定先は次のとおりでした。

- ・ 就職
 - ・ 日本電子工業株式会社
- ・ 進学
 - ・ 京都職業能力開発短期大学校
 - ・ 松江看護高等専修学校

卒業生の皆さんは、自分の適性と今後の生き方について深く考え、希望どおりの進路を決定したと思います。御活躍を期待しています。

ます。在校生の皆さんも卒業していった先輩たちに倣い、自分が納得のいく進路選択をしてもらいたいと思います。

保健部長 太下 絵里香

今年度の保健室利用状況は、総計96件でした(三月八日現在)。内訳は、内科が49件、外科が23件、その他24件で、頭痛での来室が多くありました。

また、今年はスクールカウンセラーの先生に関わっていただく時間が増え、授業の合間にも声をかけていただいたり、リラクゼーションの講演をしていただいたりしました。生徒だけでなく保護者の方もカウンセリングしていただけています。ご希望があれば保健部までご連絡ください。

今年度も心身の健康維持・増進に気をつけて自分の健康管理をしてください。四月から健康診断が始まります。全ての検診を休まないで受検してほしいと思います。

生徒の活躍

☆令和五年度校内漢字検定
○名人位
4年 荻野 紅葉